

令和 6 年度
協働によるまちづくりに関する
市民意識アンケート

報 告 書

調査概要

目的	市民の「協働」に対する意識やまちづくりへの参加状況の把握のため
調査対象	弘前市民（2,000人）※無作為抽出
調査方法	商工労政課が実施した「弘前市中心市街地に関するアンケート」に本アンケートを同封し、返信用封筒で回答
回答期間	令和7年1月23日（木）～2月10日（月）
回答者数	782人（回答率39.1%）
その他	本報告書における「回答率」は、次の計算式により算出している。

$$\text{回答率（%）} = \text{回答数} / \text{標本数} \times 100$$

各集計表の回答率は百分率（%）で、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合がある。

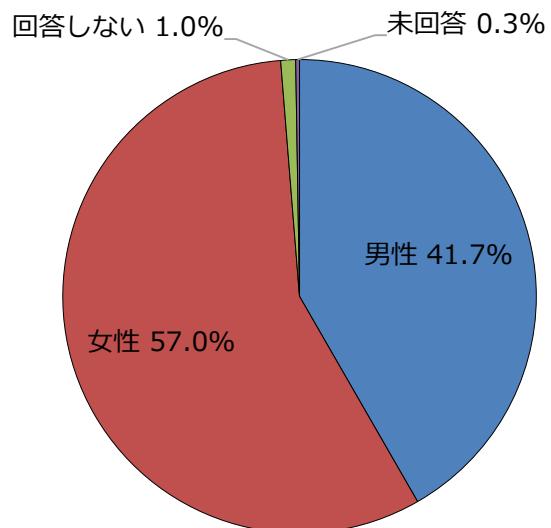
目 次

◆回答者について	02
◆条例の認知度	03
◆まちづくり活動への参加について	04
◆協働によるまちづくりに対する考え方について	08
◆弘前市の協働に関する取り組みについて	09
◆これからの協働によるまちづくりについてご意見・ご要望（自由意見）	10

回答者について

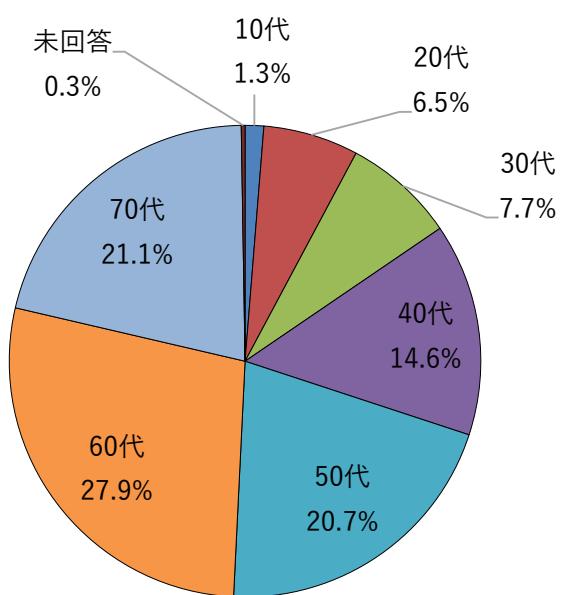
問1 あなたの性別を教えてください。

	人数	構成比
男性	326	41.7%
女性	446	57.0%
回答しない	8	1.0%
未回答	2	0.3%
合計	782	100%



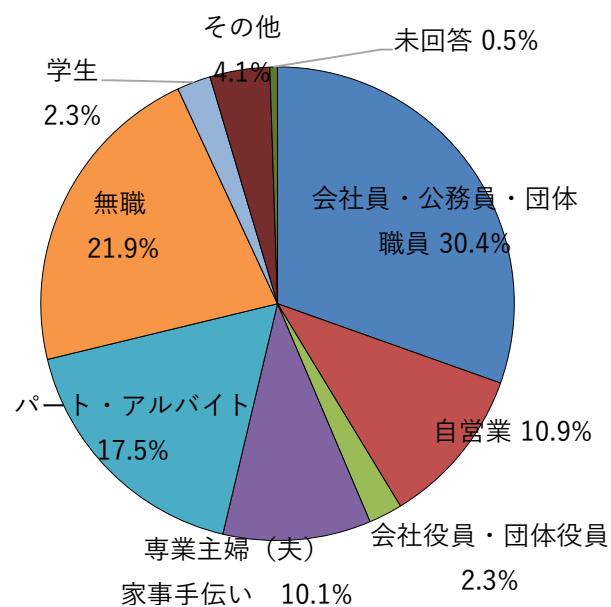
問2 あなたの年代を教えてください。

	人数	構成比
10代	10	1.3%
20代	51	6.5%
30代	60	7.7%
40代	114	14.6%
50代	162	20.7%
60代	218	27.9%
70代	165	21.1%
未回答	2	0.3%
合計	782	100.1%



問3 あなたの職業を教えてください。

	人数	構成比
会社員、公務員、団体職員	238	30.4%
自営業	85	10.9%
会社役員・団体役員	18	2.3%
専業主婦(夫)、家事手伝い	79	10.1%
パート、アルバイト	137	17.5%
無職	171	21.9%
学生	18	2.3%
その他	32	4.1%
未回答	4	0.5%
合計	782	100%

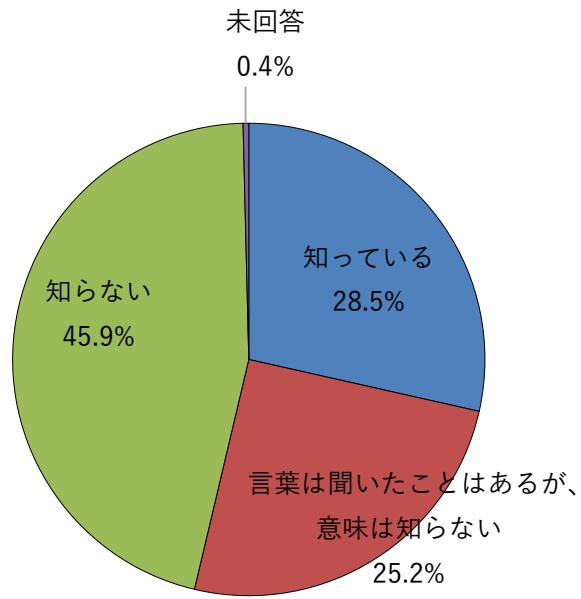


条例の認知度

問4 「協働」という言葉の意味を知っていますか。

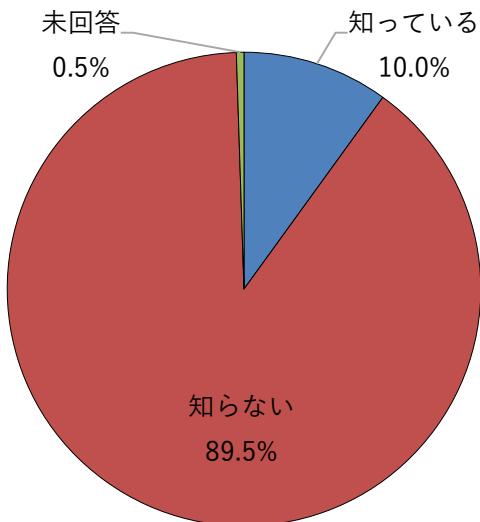
上段：回答数
下段：回答率
※（）は未回答を除いた割合

回答	年度		
	R4	R5	R6
知っている	110 13.5% (15.26%)	84 11.0% (12.73%)	223 28.5% (28.63%)
言葉は聞いたことはあるが、意味は知らない	185 22.7% (25.66%)	183 24.0% (27.73%)	197 25.2% (25.29%)
知らない	426 52.3% (59.08%)	393 51.6% (59.55%)	359 45.9% (46.08%)
未回答	94 11.5%	102 13.4%	3 0.4%



問5 「弘前市協働によるまちづくり基本条例」が制定されていることを知っていますか。

上段：回答数
下段：回答率
※（）は未回答を除いた割合



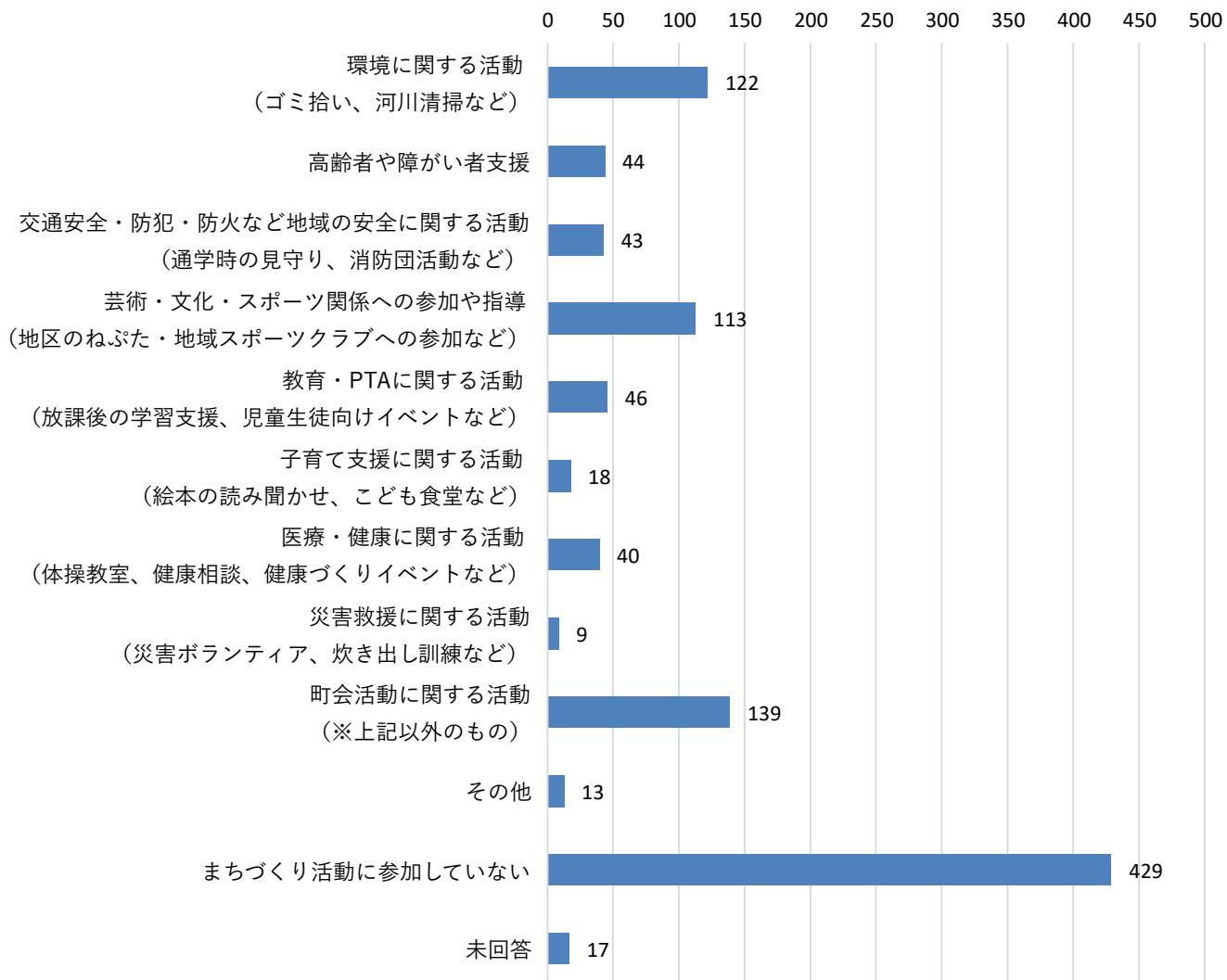
回答	年度		
	R4	R5	R6
知っている	62 7.6% (8.68%)	40 5.2% (6.18%)	78 10.0% (10.03%)
知らない	652 80.0% (91.32%)	607 79.7% (93.82%)	700 89.5% (89.97%)
未回答	101 12.4%	115 15.1%	4 0.5%

【調査結果(問4、5から)】

- ◆「協働」の意味を「知っている」割合は前年度より17.5ポイント上昇し、「知らない」が5.7ポイント低下しました。「協働」が浸透したと捉えることもできますが、一方で「知らない」が10ポイント以上低下し、かつ「言葉は聞いたことはあるが、意味は知らない」の割合が横ばいで推移していることから一時的な結果でないか、継続的に動向を調査する必要があります。
- ◆条例の制定については、「知っている」の割合が前年度と比較して約5ポイント上昇しましたが、同時に「知らない」と回答した割合も約10ポイント上昇しています。未回答を除いた割合では、いずれの年度でも「知らない」と回答した割合は9割前後であることから、条例の認知度は依然として低い状態と言えます。

まちづくり活動への参加について

問6 あなたが、この1年間で関わっているまちづくり活動について教えてください。
(○はいくつでも)



【その他自由記述(抜粋)】

- 小学校の廃品活動へ協力している
- 弘前市子ども子育て会議への参加
- 山林組合の行事に参加
- 近所の児童公園の草刈り・ゴミ集積場の清掃・生活道路の除雪等
- 除雪ボランティア
- 一人暮らしの方に昼食の準備・日本赤十字ボランティア
- 観光客への情報提供

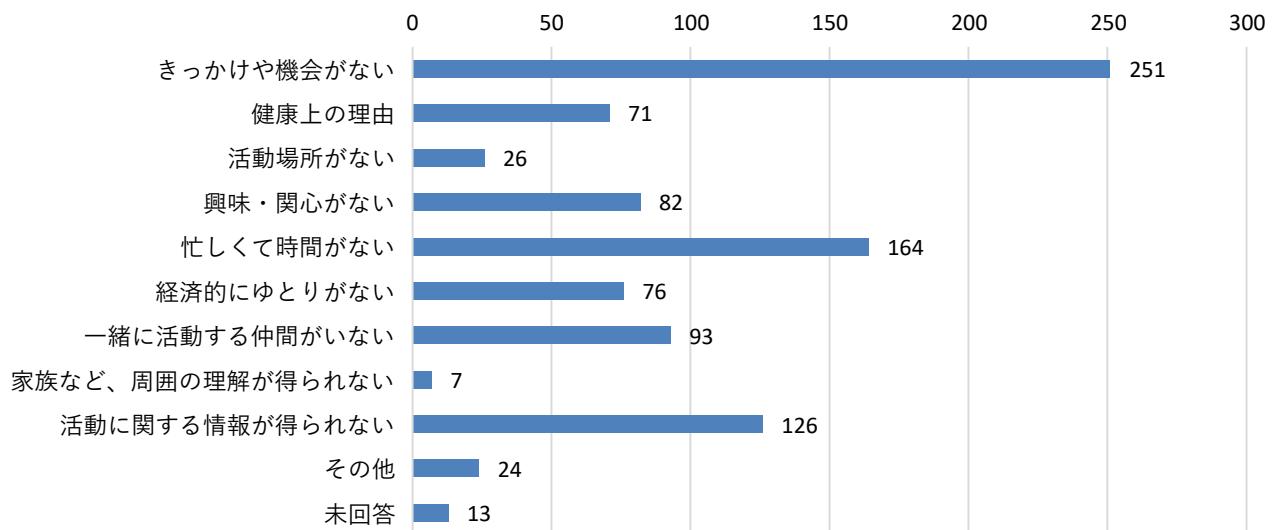
【調査結果(問6から)】

◆回答者782名の内、429名（54.8%）が「まちづくり活動に参加していない」という回答でした。別冊の資料編から、20代、30代、40代は芸術・文化・スポーツ活動への参加を回答した方が多く、40代では教育・PTA活動への参加も多くなる傾向にありました。50代以降は環境活動や町会活動への参加が多くなり、各年代で参加する活動が異なることがわかります。

問7 あなたが、現在まちづくり活動に参加していない理由を教えてください。

(○はいくつでも)

※問6で「まちづくり活動に参加していない」を選択した方が回答



【その他自由記述(抜粋)】

- 昨年まで親の介護をしていた
- 職場が遠いから
- 仕事をしているので
- 施設入所のため
- 自分の趣味などに時間を使っている
- 自分の周りのことで精一杯でゆとりがない
- 自分の健康以外に高齢の介護もある
- 以前は参加していたが、きっかけや機会がなくなった
- 他人と会話をするのが苦手
- 町内会は、決まった高齢者が主導権を握り気軽に参加できるような状況にない
- 時間がもったいない。上手くいかなかった場合に批判されるのが嫌だ

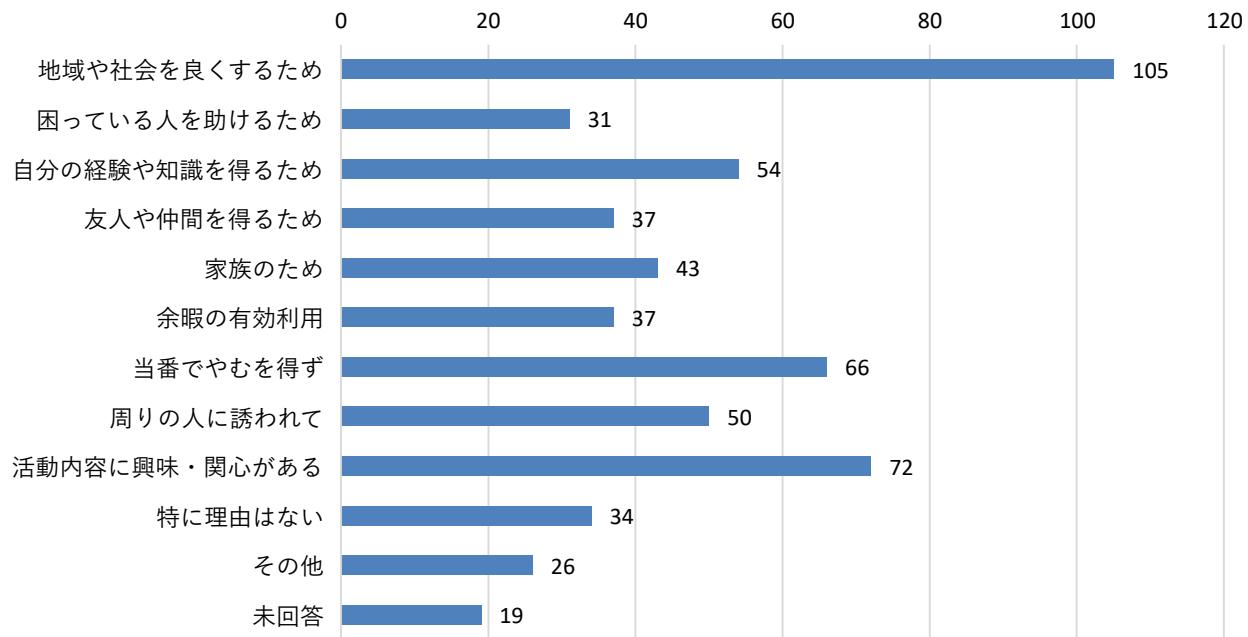
【調査結果(問7から)】

- ◆まちづくりに参加していない理由として「きっかけや機会がない」、「忙しくて時間がない」、「活動に関する情報が得られない」の順に多く、この結果は令和元年度以降、同様の結果です。
- ◆資料編の結果から、10代～50代では特に「忙しくて時間がない」と回答した方が多く、学業や仕事、子育て等を行った上で、さらにまちづくり活動にも参加することへの難しさが読み取れます。
- ◆一方、60代、70代のまちづくり活動に参加していない方では、「健康上の理由」や「経済的にゆとりがない」、「一緒に活動する仲間がない」等の理由が多くなっています。

問8 あなたが、まちづくり活動に参加された理由やきっかけについて教えてください。

(○はいくつでも)

※問6で自身が参加しているまちづくり活動を選択した方が回答



【その他自由記述(抜粋)】

- 子育て世代の応援のため、子ども向けイベントの運営に参加
- 所属団体の活動
- 町会で子育てできしたことによる恩返し
- 地域の一員としてできることがあれば協力したい
- 会社での活動
- 親から引き継ぎをしたため
- 子どものころからやってたから
- 町会役員になったため
- 気持ちよく日々を暮らしたいため

【調査結果(問8から)】

- ◆まちづくり活動へ参加した理由として、「社会を良くするため」や「興味・関心」、「当番でやむを得ず」、「経験や知識を得るため」が多い傾向にあります。
- ◆年代別では、20代では、自身の興味・関心に基づいた活動へ参加する方が多く、30代、40代では、家族のために参加する方が多くなります。50代以降では、「地域・社会を良くするため」を動機とする方が多くなり、各年代によって、参加する動機が異なることがわかります。
- ◆一方、「当番でやむを得ず」と回答する方は40代～60代で多く、40代以降の世代の多くの方がまちづくり活動に参加せざるを得ない状況から参加しているという現状が読み取れます。

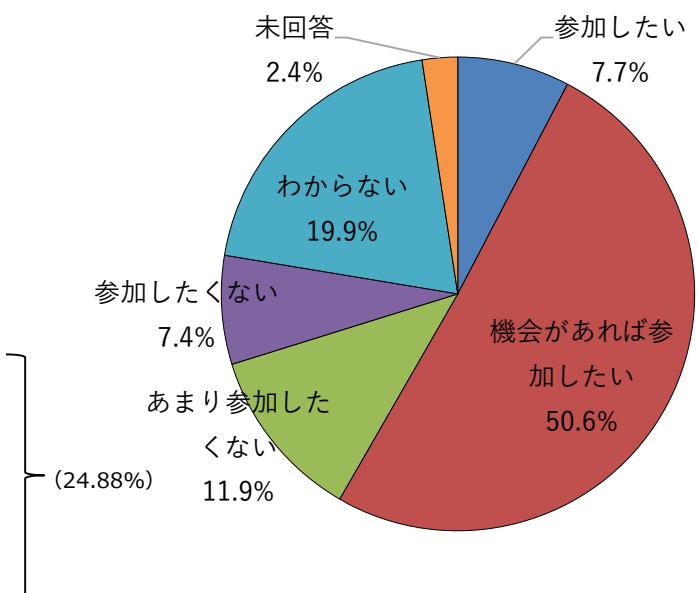
問9 あなたは、今後まちづくり活動に参加したいと思いますか。

上段：回答数

下段：回答率

※ () は未回答・「わからない」を除いた割合

回答	年度		
	R4	R5	R6
参加したい	31 3.8% (4.40%)	23 3.0% (3.75%)	60 7.7% (9.88%)
機会があれば参加したい	491 60.2% (69.74%)	424 55.6% (69.06%)	396 50.6% (65.24%)
あまり参加したくない	— —	— —	93 11.9% (15.32%)
参加したくない	182 22.3% (25.85%)	167 21.9% (27.20%)	58 7.4% (9.56%)
わからない	— —	— —	156 19.9%
未回答	111 13.6%	148 19.4%	19 2.4%

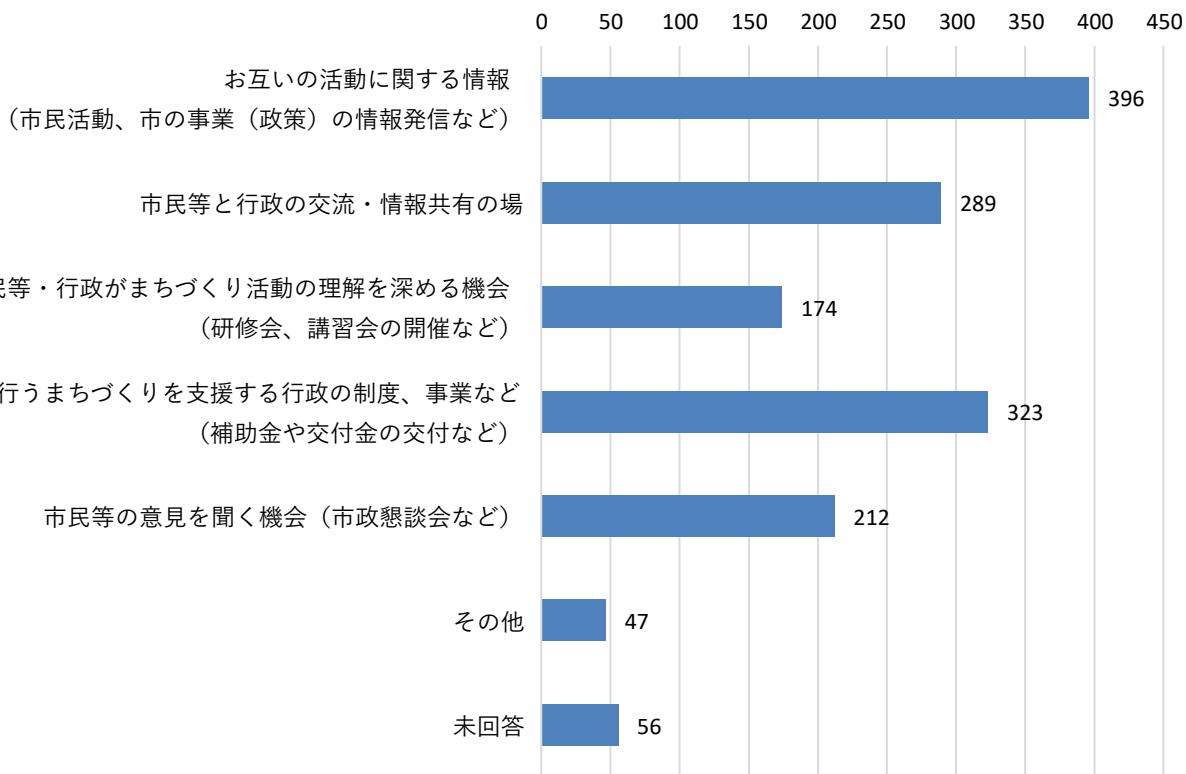


【調査結果(問9から)】

◆まちづくり活動に「参加したい」「機会があれば参加したい」と回答した割合は58.3%（未回答・わからないを除いた場合、75.12%）で、過去の調査結果と近似した数値でした。全年代の約6割の方がまちづくり活動への参加意欲はあるものの、「きっかけ」や「情報」の不足に加え、仕事やプライベートの忙しさから参加できていない方が多いようです。

協働によるまちづくりに対する考え方について

問10 あなたは、今後、市民、町会、NPO法人、事業者、学生などと行政が協働してまちづくりを進めていくためには、何が必要だと思いますか（○はいくつでも）



【その他自由記述(抜粋)】

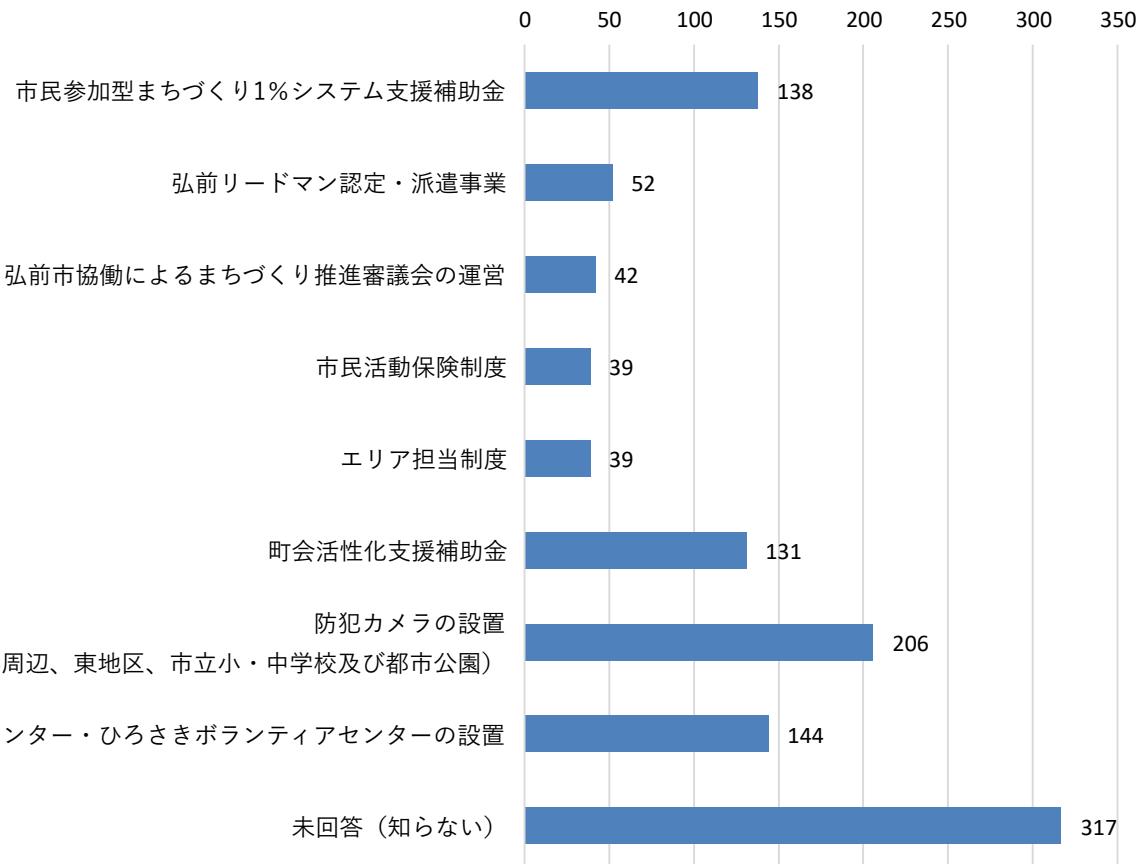
- 市民が困っている事を敏感に感じ、吸い上げてくれる行政
- 町会における隣近所での親近感等持てるような行動
- 仕事との兼ね合い、職場の理解
- 若者の参加
- 余裕のある生活（時間的、精神的、金銭的）
- 各家庭への理解
- 協働がどれほど重要なのか、協働によって具体的にまちがどう変わるのかの発信
- 市民個々人が、協働に対する意識の醸成が必要と思われる
- 個々や行政だけでは困難であることを具体的に住民に訴え、住民に簡単な何かの手助けを求めてはどうか
- 今まで参加した事が無いのでよく分からない
- まちづくり活動に参加しやすいきっかけ作り

【調査結果(問10から)】

- ◆「お互いの活動に関する情報」と回答した人がもっと多くなりました。協働を進めるためには、まずはお互いのことをより深く知ることが必要と考えている市民が多いようです。
- ◆10代～40代では、「まちづくりを支援する行政の制度・事業」を選択した方が多く、50代以降では、「お互いの活動に関する情報」を必要だと感じている方の割合が多い結果となりました。

弘前市の協働に関する取り組みについて

問11 市が実施する、まちづくり活動を支援する制度・事業について、知っているものを教えてください。（○はいくつでも）



【調査結果(問11から)】

- ◆回答者782名の内、約40.5%にあたる317名が未回答（わかるものが）ない）であり、知っている事業を回答した方の中で、もっとも認知度が高かった市の取組みは防犯カメラの設置でした。
- ◆10代、20代では特に「防犯カメラの設置」に関する認知度が高い傾向にあります。一方、「1%システム支援補助金」は40代以降から、「町会活性化支援補助金」は60代以降から認知度が高くなり、各世代の身近なものや参加するまちづくり活動に応じて、制度の認知度が異なることがわかります。

+ これからの協働によるまちづくりについてご意見・ご要望（自由意見）

20代

- 若者が参加しやすい環境作り、情報の周知に努めていただきたいです。
- 学生などの参加を促したら良いと思います。そのために学校の行事にしてもらい、参加させれば良いと思います。
- 障がい者の為の働く場
- 自分が若いからあまり情報を知らなかつたので、YouTubeに広告を打つ等周知活動を行って欲しいです。
- まず、まちづくり活動自体知らなかつたので、情報発信をがんばってほしいです。できるだけ多くの人に参加してほしいのであれば、もっと参加したくなるように工夫するべきだと思います。
- 土手町の中三のところに学校設置
- 若者が定着しない問題は、雇用の場がないだけではないと思います。とどまる理由がどういうものか、都市部にあってここに無いものは何か。

30代

- ボランティアなら参加しやすそうですが、地域づくりと考えると自分の役割や自ら意見を出すなど、積極的な人が取り組むイメージ。車がないと自由に買い物に行けない高齢者の方々と接することがあり、バスの本数も少なくなつたことから、更に住みににくい町になつたとと思います。高齢者は高齢者と、子どもは子どもとではなく、色んな年齢層と交流できる活動を興味がない人にも発信していく工夫がほしいです。特に障がい者の方々が取り残されています。
- 会社を簡単に休むことはできないので、まずは、一般市民へ意見を求めるよりも、各会社等ヘアンケートを取ってみてはいかがでしょうか。会社側（経営側）の考え方方が変わることで、各イベント等への参加もしやすくなり、よりよい弘前市へとなつていくのではと思います。
- 近所の雪かきの手伝い=対 人…直接的にお礼を言ってくれるので、「やって良かった！こちらもいい気持ちになる！」「また、やってあげよ」という気持ちになります！町のゴミ拾い=対 町（弘前市）…直接お礼なし。お礼があったとしても定型文。終わつたあとも特にいい気持ちにならない！自分にメリットはあるのか・・・と思います。「まちづくり」には若者の参加が不可欠！だと思いますが、参加している若者はとても少なく思えます！参加することで「メリットはあるの？」「参加したことで何が変わるの？」と思う方が過半数だと思います！参加することで特典、主旨の説明をしっかりする！
- ねぷた祭りを通した町会活動に対しての、補助をお願いしたいです。会員の会費、町内の寄附でなんとか運営していますが、年々減っています。どこの地区でも苦労している案件なので、検討していただきたいです。ねぷた祭りのコミュニティは弘前特有のものなので、存続させていくために、市として考えてもらいたいです。

40代

- 仕事が終わる目処が立つたら、子ども食堂や不登校児の居場所となる場を友人と作りたいと考えていますが、法人を作る、資金を確保するなど、ハードルが高すぎると感じています。市でこのような場を作ってくれたら、もっと興味や志がある人が集まると思っています。
- 一部の方のボランティア精神だけでは困難な面が多く、片手間ではなく、協働の中心的な役割にはそれを生業とする企業・団体の力が必要かと思います。
- お祭りに補助金（地域の小さな祭り）を出すくらいなら、防犯カメラの設置を多くすると暮らしやすくなります。
- 家庭のことで精一杯なところはありますが、機会があれば、参加したいと思います。
- 町内のごみ捨て場。いつも同じ人が片づけしています。もう少しどうにかできないかなと思います。
- 学校や会社、地域などでいろいろな行事や支援に参加する機会を作つて、生活の一部の様な存在にする必要があるのでは？と思います。
- 知らない活動が多いので、周知活動を増やす。

40代（前頁のつづき）

- 若い人の意見を取り入れ、若い人が魅力を感じるまちづくりをお願いします。
- お年寄りだけでなく、若年層の意見を柔軟に取り入れていくべきだと思います。市民のアイデアも否定から入るのではなく、広い寛容な心を持って受け入れるべき。アイデアポストに投書していますが、あまり採用された経験がないです。市民の意見交換会は平日の日に古い公民館で行っているようですが、幅広く意見を募るのなら、土日にヒロ口等もっと集まりやすい時間帯、場所で行うべきです。
- 昔のような世の中にはならないかとは思いますが、イベントなどで少しでも盛り上がる機会があると良いです。
- 子育て支援で、全ての子どもに対して、大学まで無償化にしてほしいです。若い人が結婚して、子どもがほしいと思える体制にしてほしいです。余裕がなくそう思える人がほとんどいないと思います。
- 職業で、障がい者等を農園で一緒に働きながら指導しています。福祉の分野をもっと活性化してほしいと考えています。
- 市民ではあるのに協働に関するることはほとんど知りませんでした。今回こういったアンケートが届きはじめて知ることができ、よかったです。何か、誰かの手助けになれることをしたい・・・と思っていても、きっかけはなく、ただただ日々の生活を追われる毎日でした。もうすぐ子育ても一段落するので、改めて協働の取り組みについて考えてみようかと思います。ただまずは何から、どこへ行けば？とわからない方もたくさんいるのではないかと思うので、普段の生活で目につきやすいところでの発信があればありがたいと思います。
- おそらく、高齢化により限界が来るのでしょうか。間違いなくなるのかなと思います。生活できなくなるのでしょうか。消滅するのかな？少子化対策が大事かと？
- 人口流出を止められなければたぶん無理。何をしても。子ども達が弘前市に魅力を持てれば弘前もよみがえる。
- 学校周辺はきれいなところもありますが、少し離れると歩道は雪で埋もれて車道を歩かないと駄目だったり、横断歩道も視界が悪く車が来ているか確認できず危険です。まちづくりに何か協力できる事があれば良いと思いますが、今は忙しいので、家に居ながらや、ネットを使ってなど小さな事でも協力できる事があるなら教えて欲しいと思いました。
- 子育て世代は協働に参加するゆとりがないです。部活動を含めて学校活動が先生の負担を減らすために、保護者の負担、役割が増えています。特に子どもが多いと大変。昔と違って共働き世帯が多いので、子育て世代は協働に参加する余裕はないと思います。となると、協働に参加できる人は年寄り中心になりますが、活動のバランスが変に偏りそうな気がします。若い人の声を生かすにはSNSをうまく駆使して、工夫した取り組みが必要かと思います。
- 子育てが落ち着いた時、何かしらお手伝いできたらと思います。
- やりたいと思ってる人、やりたいけどやり方が分からない人は潜在的に一定数はいるのでその層へのアプローチが必要だと思います。

50代

- 【問9】について、自身に縁のある活動があれば参加するかもしれないです。
- 子どもが増えて、若い人達が働く所があり、活気・住みたい町・県になってほしい！！
- 協働活動が必要だという認識はありますが、フルタイムで、シフト制、残業で8時～9時頃の帰宅になる事が多い現在の状態では、ほとんど参加は難しいです。時間的にも、身体的、精神的、家庭的にも余裕がなければ協働活動に積極的に参加するのは難しいと思います。必要な事であることは、理解していますが・・・。町内のご近所さんでも一人暮らしの高齢の方はおられます。しばらく姿が見えないと心配にもなり、様子を気にしたりはしますが・・・。プライバシーの問題もあるし、個人の考え方の違いもあるので介入してもどうなのかと思ってしまいます。でも何かあった時、困った事があった時に、すぐに助けられる体制や支援は必要だと思うので、体制の整備はあるのか、支援に繋げるにはどうすればいいのか、というところが知りたいです。
- 金銭的に心にゆとりがなければ、『協働』にすら目を向けられないので手取額の賃上げを強く希望します。
- 県、市は子どもの支援ばかりで、自分は子どもがいないので何も支援がないように感じられます。
- 市からの支援制度や事業、補助についての情報発信が足りないとと思います。『〇〇〇なことが実施されました』だけではなく、それに至るまでに、市や周囲の協力（人的・金銭的全て）がどれだけあったか。どれだけの準備期間があったか。費用はどうだったか等も明確にして欲しいです。
- 何でもボランティアに頼るのではなくて少額でも報酬があれば、やってみたい人は増えると思います。暇はあるけどお金が無いという人が多いのでは？

50代（前頁のつづき）

- 小さなことですが、昔のように隣近所仲良くすることがまず基本だと思っています。最近は人付き合いが面倒だからということで、町会にも入らない人が多い。活動する人だけのまちづくりではいけないと思います。
- ゴミ出しのルールを守る、除雪車が寄せ雪を片付ける、町会費を納める、税金を納める、子育て、介護、これらも立派なまちづくりだと思います。どこも経済的に余裕がなくなっています。他人を助ける精神的、経済的、体力的な余裕がなくなっています。何かにつけてボランティアを強要されるのは不快です。
- まちづくり自体理解されていないような感じがあります。というのもそれに関して目にする機会も無いし、情報がオープンにされていない感じがあります。色々な世代の意見を聞き、それをどうしていくのかのプロセスを見れる場があれば関心も強くなります。（例えばYouTubeライブやインスタライブなど、市民参加型にしてみるなど。）よくニュースで「〇〇行われました！」とか流れるけれど全く市民には響かないで、やめたほうがいいと思います。ライブ中継の広告はテレビ、ラジオ、FMすべてに流し誰でも目のこと。それをして上に市民参加型まちづくりができるのではと思います。
- 行政で働いている人達との研修や意見交換は有意義だと思います。イベントなどで体験したりする事ができればより理解が深まると思います。また弘前の情報を発信しているインフルエンサー等の意見も聞いてみるのも良いのではと考えます。
- 可能であれば、情報共有や講習会などは、人通りのある所（土手町の広場やスーパーの一角など）で通行人が関心を持てるような形で行われたら良いのではないかと思いました。
- 協働によるまちづくりに関して、何をどのようにやってるのか、全くわからないです。もう少し、市民に活動、仕組みなどわかりやすいようにしてほしいです。

60代

- 自分も機会があれば、是非参加したいと思っています。
- 【問11】で〇がなかったことに申し訳なく思います。私も高齢ですが、何か活動できるものがあれば、参加したいと思いました。
- 昔、弘前は学園都市と言われていた記憶があります。時代の流れで仕方ないのかもしれません、すっかり様変わりして弘前の街が廃れていくようで淋しい思いです。これは弘前に限ったことではないのですが、もっと人口が増え活気のある街になってほしいと期待します。
- 家族経営で、ほとんど休みなく仕事をする毎日でした。子どもが小さい頃はPTA活動にも参加していましたが、近頃はそういう事もなく、今回のアンケートで、色々と考えさせられました。
- 協働 → 市民に具体的な活動・協力内容を示してもらった方が、それぞれの立場で選択・協力できるのでないでしょうか？
- 若い人など、町会に未加入であったりするので、町会がどんな意味、どんな活動、どういう役割をになっているとか、皆々に知らせる事が必要だと思います。町会費は払う意味がある事を、知らしめる事が大事だと思います。
- 活動している方と知り合うきっかけがあれば時間を作つて一緒に手伝いをできると思いますが、周りにいなくてどうしたら良いかのわかりません。
- 協働を知らず、今までまちづくり活動に参加していませんでした。今後は、少しずつ無理せず、マイペースで近所の方々と交流し、参加していきたいと思います。
- とにかく、人口減少をくいとめることが必要と考えます。そのためには、18才と22才が流出しないような方策が必要です。全国の地方自治体が一致団結して中央集権、一局集中を是正するよう、国に働きかける必要があると思います。
- 町内会活動は、先住民（シニア）対団地からの移民（共稼ぎ）子育て組との違和感があり、町会費だけ納めてあとは月当番にも共（協力）しない若い人が多くなっています。マラソンと駅伝の違いですね。名前も顔も分からぬ人が多くなってしまいました。ごみ出しのマナーも悪いです。他の地区から通りすがり分別もせずに、捨てていく人がいて困ります。
- このアンケート用紙が届くまであまり弘前の協働というものを考えた事がなかったのでこれを機にまずは、考える事からはじめたいと思います。
- 弘前市がこういう活動していることを初めて知りました。成功している活動例等がありましたら広報にでもせてほしい。

- 弘前市協働の組織や活動内容について知らない人が多いので、その内容について、多くの市民に知つてもらうための方法が必要です。多くの人たちが何だろうと目を向け興味を示すよう、強烈にアピールする方法を考えることが必要です。
- 町内会の班長くらいしか、最近は活動したことはありませんが、参加するのはイベントでも小・中学生や高齢者ばかりになっているようです。大人の人達は、利益誘導型のイベントにはよく参加したり、見に行くことが多いですが、絶対的に若者が不足していて、限られた人しか参加していないように思います。次世代を担う人材確保の為にも、色々な形の定住促進策が必要な時期で苦労も多いですが、出産数を増やすだけでない住み易い環境づくりにしていくことが、もっとも重要かと思います。協働によるまちづくりとしても人材が定着しなければ、一部の協働だけになってしまふものと思います。
- 「協働」という言葉に対応することは、できていません。日常生活で、重い荷物を持った人には声かけをして、持つことを手伝ったり、目の不自由な人と一緒に横断歩道を渡ったりして、自分でできることをしています。
- 今までこの協働によるまちづくりはまったく無知でした。これを機に少しずつ知識をひろげて、参加できる事は参加していきたいと思います。
- 市政懇談会の開催は今まで実施されていたと思いますが、どんな意見や質問が出たり、回答があつたのか等の情報はあまり分かりません。広報とかに掲載していたのかもしれません……。
- 町会の支援活動に参加したいと思っています。
- 賑わいも大事ですが、安心・安全・快適が基本と考えます。「地区の町会連合」から、町会に負担金の割当が来ますが、納得できません。強制の根拠は？使途が多くの町会員に関係無い。（地区体育協会の負担金とか）エリア担当制度はありがたいです。市職員の皆様の献身に感謝致します。
- 弘前市内の町会の多くは超高齢化が進み、特に町会長や役員の方々は80代～90代で高齢者バイアスに陥っている人が多い感じがします。私の住んでいる地区でも、新しい発想や意見は通らず現役世代は困っている様子。市では様々な制度を考えているようですが、各町会の現状も認識していただきたいと思います。
- 今まで、このような企画があったことも知らずにいたことに（自分の無関心さからだだと思いますが）申し訳なく思い反省させられました。弘前市「中心市街地の活性化」はとても必要なことだと思います。市街地以外の活性化にも、目を向けていただくことをお願いします。
- 老人優先でなく若者優先のまちづくり政策をするべきです。
- 大都会から移住して自分の希望の事をしっかりやっていますが（山菜採り、野菜作り）この町内は良くまとまっており感心しています。小生も役員をやり、町のイベント等に参加してお年寄りが多いので、できるだけのコミュニティを図っています。大半の方は市のいろいろな制度、事業は全くといってよい程知らないと思います。なぜか？俗に言う、役所仕事だからだと思います。地域担当は今、町内会の会議、イベント等に参加してますか？職員との距離が近づいてますか？やっている制度がある等並べるだけでは何の価値も無いのでは？もっと目線を下げて一緒に考えようという姿勢でなければ、意見のくみ取りは不可能です。そして少しずつでも“実行”することが協働に発展するのでないでしょうか？職員の皆様頑張って下さい。
- せっかく流雪溝があるのに、アパート等の前の雪が山になっているのがもったいないと思います。ゴミ出しについて、私の所では、隣組を3ヶ所に分けて、一軒3～4ヶ月の持ちまわりでゴミ置場としています。お陰様で全世帯がゴミの管理をするので、散らかることがありません。